

---

# ねこの思い出 1 「うちのねこ」

西宮尚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ねこの思い出1「うちのねこ」

### 【Nコード】

N5741D

### 【作者名】

西宮尚

### 【あらすじ】

ねこの思い出1 8歳8ヶ月で逝ってしまったねことは、いろいろな思い出がある。その思い出で、印象に残っているものをつづります。

(前書き)

18歳8ヶ月で逝ってしまったたねこの思い出をつづります。  
そのねこは、最高にかわいい容姿と最悪な性格をしていました。

先日、18歳8ヶ月で逝ってしまったうちのねこ。  
そのねこの思い出を、これからつづつて行こうと思う。

うちのねこは、誰もがみとめる美猫だった。

どこにでもいそうなメスの三毛猫ではあるが、  
痩せすぎず太りすぎず、いかにも愛らしい猫らしい丸いフォーム。  
密度が濃くやわらかいネコっ毛。

三毛の色の配置も丁度良く、均整が取れていた。

そして、鼻と肉球も、ピンク、黒、茶色と3色であった。

その愛らしさは、いつ見ても飽きなかった。

でも、性格は最悪だった。

ひねくれていて、わがままで、気が強く、かんしゃく持ちだ。

子供の時から何匹かの猫を飼ってきた私が言うのであるから間違いない。

また、オスだろうとメスだろうと、どんな猫にでもケンカを売っていた。

そのため、近所の空き地で行われている猫の集会に、うちのねこが出席している姿は最後まで見ることが出来なかった。

このねこは、一番かわいい容姿を持っていながら、一番ひどい性格をしていた。

そのようなねこであるから、いろいろと逸話を残している。

それは、面白くおかしいものが多い。

それは、ねこと過ごした日々がどれだけ面白く充実したものであるかを物語っている。

死というものは、肉体が死んだ時最初の死を迎える。  
そして、人々から忘れられた時に本当に死ぬという事を聞いた。  
うちのねこの肉体は死んでしまったけれど、本当の死を迎えるのを  
少しでも遅らせるために、ねこの思い出を残していきたい。

・ ( n ・ n ) ・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5741d/>

---

ねこの思い出1「うちのねこ」

2010年12月14日18時14分発行